



武家屋敷通りの四季を感じることができます。

日本郵便株式会社東北支社が「みちのくの小京都「角館」その七」と題したオリジナルフレーム切手の販売を4月10日より開始しました。

これを記念し、同社より仙北市に寄贈いただきました。

販売されるのは、角館の桜を中心に武家屋敷通りの風景がデザインされたフレーム切手1500シート（1シート84円切手×10枚1400円）。仙北市、横手市、大仙市、美郷町の計71郵便局で購入ができます。

オリジナルフレーム切手を寄贈

『みちのくの小京都「角館」その七』

百寿

おめでとう
いじやうます

4月2日、浅利利さん（田沢湖生保内）が100歳の誕生日を迎えられ、自宅でお祝いが行われました。

当日は、仙北市からお祝いと花束が贈呈されました。



倉橋副市長（左）から利さん（右）に手渡されました。

栄光 ～輝くとき

令和元年度
スポーツ賞
表彰式

4月4日、勤労青少年ホームで仙北市体育協会（佐々木健会長）が主催する「令和元年度仙北市スポーツ賞表彰式」が行われました。



各競技で輝かしい成績が光りました。今年度も活躍が期待されます。

新型コロナウイルス感染症対策のため今までは違う状況の中で行われましたが、長年にわたり競技の普及に貢献された指導者や功労者、各種大会で優秀な成績を残した24個人、5団体が表彰を受けました。

【受賞者】

※敬称略・（ ）は競技種目

▼指導者賞 草薮宏之（バスケットボール）・渡辺友康（水泳）

▼栄光賞 伊藤雅英（ソフトテニス）・高藤久晴（同）・石川大雅（陸上競技）・真崎謙良（水泳）

▼奨励賞 木元ひなた（水泳）・高橋凜（空手）・高橋来唯（バレーボール）・武藤桜南（陸上競技）

門脇海斗（グラウンドゴルフ）・新田淳仁（空手）・湯澤蓮（同）・新田悠仁（同）・佐々木雄（同）・高橋優斗（ソフトテニス）・岩田晴（空手）・高橋陽（水泳）・鎌田宇朗（スキー）・黒澤要（柔道）・福島誠之介（同）・佐藤亜耶希（同）・木元晴樹（水泳）・澤山こころ（ソフトテニス）

▼団体栄光賞 角館高校山岳部 男子（山岳）

▼団体奨励賞 西木JRCスポーツ少年団（野球）・角館マックススポーツ少年団（同）・大曲仙北クラブ（同）・角館中学校女子バスケットボール部（バスケットボール）



消防庁長官表彰を受章した千葉雄清分団長。



消防庁長官表彰と日本消防協会長表彰を受章した下田忠浩副団長。

消防功労者表彰

日々、消防団として市民の生命財産を守り、地道な努力と研鑽を積んできたことが高く評価され、次の方々が表彰されました。受章おめでとうございます。

- 【消防庁長官表彰】
 - ▼永年勤続功労章 消防団本部（角館地区）副団長／下田忠浩 第2分団（田沢湖地区）分団長／千葉雄清
 - 【日本消防協会長表彰】
 - ▼精績章 消防団 副団長／下田忠浩
- ※敬称略。役職は3月現在です。



これでスムーズな開閉ができますね。

子どもたちのために
地元企業が
ボランティア

4月3日、生保内小学校で株式会社寺沢工務店と取引先業者でつくる「恒友会」によるボランティア活動を行いました。この日は、会長の鈴木武彦さん（匠伸住建社長）ほか各事業所の代表など9人で、グラウンドのゴールポストの塗装や戸車の調整などを行いました。鈴木会長は「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う休校措置や春休みで1か月以上登校できない事態を受けて、会員の方と地元企業として何かできることがないかという話になった。今後も児童生徒が安心安全に活動を行えるようにボランティア活動を行っていききたい」と話しました。

市長の
まちづくり
No.169
日記

『緊急事態の世の中で』

仙北市長 門脇 光浩

政府の緊急事態宣言が全国に拡大されて半月が経ちました。市ではこれまで、市民の皆さまに外出をできる限り控えてくださいとお願いをしてきましたが、先ごろは桜の開花などで、県内外から多くの皆さまが市内に流入しました。もともとと花紀行の取り止めや、市が運営する各施設の休館・休止・閉鎖の狙いは、市民保護と感染抑制のシンプルな考え方でした。しかし、市外・県外の皆さまに同じ認識がないと、市民の健康を守ることができないことを改めて感じています。

そして、市民の命を守ろうとすればするほど、経済的ダメージの傷口を深めてしまつて毎日です。事業主の皆さまには、耐えがたい現状の中でもご協力をいただき感謝しかありません。そんな中、先ごろ始まった県の休業要請協力金はありがたい制度です。しかし受給要件については様々な声が届いています。市ができることを模索しています。

国民すべてに10万円を支給する特別定額給付金は、とにかく早く皆さまにお届けたいと考え、推進本部を立ち上げて対応を強化しました。さらに休業補償な

ども検討を加速します。

最近、新型コロナウイルス感染症は、人の行動パターンや価値感を問い直しているように感じています。近い将来、もちろん私たちはウィルスの制圧に成功します。しかし、それが現実となった時、以前の町や日々の暮らしが、そっくり戻ってくるかどうかです。あるいは別の在り方、望む将来を新たにリセットする機会になるのかもしれない。

7都府県に緊急事態宣言が出るウワサを聞いた日、私は都内で仕事をすると二人の子どもに「緊急事態宣言が出そうだから、兄妹は都内で助け合うように」と連絡しました。2人からは故郷を気遣って「ほ〜い」と脳天気な返信でした。あの時、「都内は怖いから家に帰りたい」と言われたら私はどう応えたか…。しかし、多くの家庭はそんな場面でも「帰ってくるな」と伝えたそうです。在京者の帰省で感染が拡大したケースを繰り返してはいけない、高齢の家族を守らなければいけないとの判断です。国の緊急事態宣言下、市民の皆さまの心強い対応が続いています。市役所も踏ん張りどころです。